



# とぎのこえ Good News for Japan

平成二十五年二月一日発行  
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

## 神と人にとに仕える

樋口 和光

昨年の大晦日の夜に、年越しそばを仮設住宅に届けている中学生の姿を、写真で見せてもらいました。早朝六時に東京を出発し、岩手県大船渡市での給食支援に向かった救世軍継続支援チームに、四人の中学生が

参加したのです。仮設住宅を一軒、一軒回って年越しそばを届けている姿に、主イエスの優しさが感じられました。聖書にも、彼らと、ちょうど同年代の少年イエスのことが記されています。

過越祭を守るため、マリアとヨセフは、十二歳のイエスを伴い、エルサレムの神殿に上りました。そして神殿における祭を終えて帰路に着いた時、両親は途中でイエスがいないことに気づき、エルサレムに引き返します。消息不明となつてから三日後、両親の心配をよそに、少年イエスは神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、彼らの話を聞いていた。質問したりしていました。イエスを発見した母マリアは、「なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんもわたしも心配して捜していたのです」とたしなめます。ところがイエスは、「どうしてわたしを捜したのですか。わたしは自分の父の家にいるのは当たり前だということを知らなかつたのですか」と言葉返します。

人の成長は、その人がどのような環境におかれるかによつて左右されると言つてよいでしょう。今日特に、心の教育の必要が求められています。

我が家の子どもたちは、すでに成人し、それぞれ家庭をもつ身となりましたが、誕生から成人するまで、救世軍という教会に属する信徒の群れ―神様につながる大きな家族の中で成長させていただきました。多くの人々の祈りに支えられて成長し、救世軍がおこなう様々な奉仕にも参加するようになりました。特に、街頭生活者に対する給食支援は、我が家の年中行事になり、冬場になると家族総出で奉仕に加わりました。また、二〇〇〇年の北海道の有珠山噴火の時には、長男が高校の春休み中で、救援チーム募集に応じて、同級生と共に雪の残る北海道にフェリーで渡り、被災者支援を体験しました。その息子は、大学卒業後、数年にわたり、パプアニューギニアで未開の地の開発事業に



昨年大晦日に、年越しそばをお届けしました(大船渡・永沢仮設住宅にて)

これは、イエスご自身が、神の子としてこの世においてになつたことを自覚し、神を礼拝するために人々が集つてくる神殿こそ、当然自分がいるべき場所である、という意味で言われたのでしよう。

聖書は、この頃のイエスを「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人にとに愛された」と記しています。

人の成長は、その人がどのような環境におかれるかによつて左右されると言つてよいでしょう。今日特に、心の教育の必要が求められています。

我が家の子どもたちは、すでに成人し、それぞれ家庭をもつ身となりましたが、誕生から成人するまで、救世軍という教会に属する信徒の群れ―神様につながる大きな家族の中で成長させていただきました。多くの人々の祈りに支えられて成長し、救世軍がおこなう様々な奉仕にも参加するようになりました。特に、街頭生活者に対する給食支援は、我が家の年中行事になり、冬場になると家族総出で奉仕に加わりました。また、二〇〇〇年の北海道の有珠山噴火の時には、長男が高校の春休み中で、救援チーム募集に応じて、同級生と共に雪の残る北海道にフェリーで渡り、被災者支援を体験しました。その息子は、大学卒業後、数年にわたり、パプアニューギニアで未開の地の開発事業に

今年、救世軍では「青年の年」と定められました。青年の健全な成長を願い、青少年に対する活動に力を尽くし、将来に希望をもつ青少年を育てていきたいと心から願うものです。

(救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。



業して、銀行へ入り、その後には順風満帆、ビジネスの世界の価値観——利益を上げることに、出世をすること、財産を増やすこと、おいしい物を食べることに、いい車に乗ることなど、この世間的な幸せを求めて——で生きていました。でも、その中で、「何か違うな」という思いも心のどこかにあったのです。

—その思いを引きずってこられたのですね。

和田 はい。四十歳というのは、そろそろ自分の半生を振り返る頃ですよ。先もだいたい見えてくるし……。人それぞれ、頼るものがあると思うのですが、自分にとってはキリスト教がそれでした。自分の戻るころがあった、という思いでした。それ以来、今、五十一歳ですが、以前と百八十度違った価値観をもって生活しています。

聖書には、人間の弱さや罪の問題など、どんなことでも書いてあります。そして、神様は、何の価値もない自分を愛してくださいって、ということを教えてください。

私は、キリスト教を信じて、無病息災や商売繁盛などのこの世的な「御利益」



にあずかることにはつながらない、と思います。その代わり、神様の愛を感じて、すべてのことに感謝して、苦しいことや悲しいことを心穏やかに乗り越える力がわいてくる……やや逆説的ですが、「この世的な御利益がないことが、キリスト教の御利益」だと考えています。

—それでは、和田さんの好きな聖書の言葉は何ですか。  
和田 旧約聖書のヨブ記の「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ」(一章21節)

裸で生まれてきて、この世を去る——天に帰る時も手ぶらです。すべては神様が与えてくださっているのです。人生、何を残したかではなく、何をしたか、が大切なのではないでしょうか。

—和田さんのボランティア活動は、ご家族も理解をされているのでしょうか。

和田 はい。よく理解し、温かく見守ってくれてます。家内は私より一年遅くクリスマスチャンになりました。私がクリスマスチャンになった時、家内に、洗礼を受けた時どういう気持ちだったか、などいろいろ話しました。

今は、家族そろって教会に行っています。

—去年の大震災以来、大勢の人がボランティア活動に従事するようになりましたが、そのことに関してどんなことを感じておられますか。

和田 何の見返りも求めず何かをする、隣人のために労を惜しまないというのは、結局は、自分のためなのです。それによつて心のバランスがとれる、というか……。意味のあることだと思えます。そういう経験をもっと多くの人がするといいと思います。

ただ、それがいつまで続くか、です。五年、十年続くか、というところではないか、もしかしたら、長く続ける

には、信仰がバックボーンになれば難しいかと思えます。救世軍のように、神様の愛に押し出されて必要な支援活動は、それを必要とする人がいる限り続けられるでしょう。

—クリスマスチャンはたくさん賛美歌を歌いますが、和田さんの好きな賛美歌は？  
和田 『讃美歌』(一九五四年版)の二七〇番、「信仰こそ旅路をみちびく杖」です。

信仰とは、人生という旅を導く杖のようなものだ。この杖(信仰)があれば、この世に恐れるものはない、という内容の歌です。

信仰をもつかもたないか、つまり神様を信じるか信じないかは、個人の価値観の問題ですが、私がクリスマスチャンでない方々にお伝えしたいのは、

「神様が存在する証拠はないけれど、同時に、神様が存在しない証拠もない」ということですね。それならば、神様が存在するほうに賭けて、神様の愛に包ま

れて、感謝をしながら心穏やかに生きていく……これが、私自身がクリスマスチャンとしての人生を選んだ最大の理由かもしれません。



日本キリスト教団 教会員

救世軍の街頭生活者支援活動

日本全国にある救世軍小隊(教会にあたる)で、渋谷小隊のように、街頭生活者の方々に給食をおこなっているのは次の所です。

上野小隊(東京)一月一回、横浜小隊(横浜)一週一回、天満小隊(大阪)一週一回(現在は場所を再検討につき休止)、西成小隊(大阪)一毎日曜、広島小隊(広島)一冬期(二、三月)月二回、福岡小隊(九州)一月二回

これとは別に、毎年、十二月半ば〜翌三月初めまでの週三回、東京都内三箇所、街頭生活者の方々への給食をおこなっています(十一月は温かい弁当、一月〜三月はカレーライスなどの温かい食事)。毎回、調理や配食に、救世軍信徒はもちろん大勢のボランティアが参加しています。また、四月〜十一月には、月一回、月曜日に、東京・大手町の常盤橋公園で、日用品配布をおこなっています。この時は、コーヒーサービスと、希望者への散髪も提供されます。

どちらの活動へも、クリスマスチャンであるなしにかかわらず、趣旨に賛同する方であればどなたでも参加できます。ボランティアは随時募集しています。問い合わせは、救世軍本営 社会福祉部

Tel 〇三・三三三三七・〇八六五



クリトリ

ご住所

ご氏名

□ 私の近くの救世軍を紹介してください。

□ キリスト教についてもっと知りたいです。

□ 『ときのかえ』の購読を申し込みます。

裏  
この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

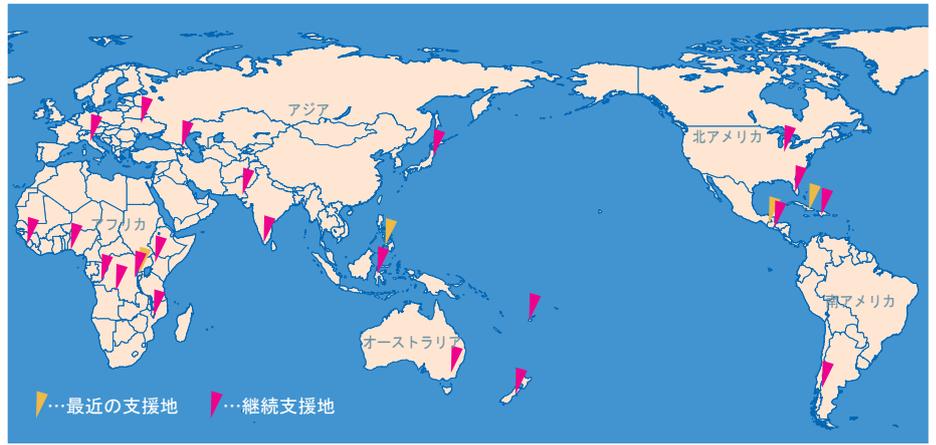
創立者 ウィリアム・ブリス 大将 リンダ・ボンド (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



### 世界をみつめて

#### 救世軍の国際的な 救援・支援活動

世界では、様々な規模、また様相の災害が起こっています。救世軍はそれらの被災地で緊急及び長期的な救援・支援活動をおこなっています。右の地図は、現在、それらの働きがおこなわれている場所を示しています。



#### 最新の支援活動

##### 【2012 年 11 月

##### ハリケーン・サンディ被災地】

昨年 10 月に発生したハリケーンは、カリブ海の国々——ジャマイカ、ハイチ、バハマなどに被害をもたらし、温帯低気圧に変わってアメリカ東部に上陸しました。

ニューヨークでは広範囲で浸水に見舞われ、11 月 4 日に開催予定だったニューヨーク・シティマラソンが中止に追い込まれました。

救世軍はいち早く救援活動を開始し、当座必要な物——食べ物や水、衣服などを配布しました。現在も、赤十字や国の緊急災害支援機関などと協力で支援活動を展開しています。



##### 【2012 年 12 月 台風被災地】

フィリピンでは、12 月 4 日に直撃した台風 24 号により、死者 1,000 人以上、行方不明者 800 人以上を出しました。被害はミンダナオ島に集中しており、洪水に加えて地滑りも起こり、20 万

人近くの方が家を失いました。ここは、その前年も洪水被害を受けており、約 1,500 人の命が失われています。救世軍はこの地域に食料、寝具、その他の生活必需品を届け、時間の経過と共に変化する支援要請に応じて、活動を続けています。

##### 【2012 年 12 月 東日本大震災被災地】

12 月 4～5 日、北海道の支援チームが岩手県陸前高田市の施設や仮設住宅 16 箇所を訪問し、食事提供とクリスマス会をおこないました。12 月 22 日には、東京地区のチームが福島県郡山市の双葉町借り上げ住宅の自治会で、昼食の提供とクリスマス会をおこないました。

また、厳しい寒波に襲われた年末、東京地区と関東東北地区の支援チームが大船渡市の永沢仮設住宅を訪問。年越しそばとおせち料理を提供し、大晦日のひととき、共に歌い、語り合い、楽しい交流の時をもちました。



### 救世軍とは

The Salvation Army

プロテスタントのキリスト教会で、一八六五年に創立されました。本部はイギリスのロンドンにあり、現在、世界百二十六の国と地域で活動しています。

その特徴は、人々の必要に応える働きをおこないながら、神の愛を伝えていくことと、軍隊流の組織をとっていることです。



創立者のウィリアム・ブリスは、その人の一番必要としているものを提供しない

で神の愛を伝えることはできない、と物心両面からの救いを目指しました。貧しい人々、悲惨な状況に置かれている女性や子ども、アルコールのために生活が破たんした人、災害などの

### 社会鍋募金へのご協力、ありがとうございます

2012 年 12 月 10 日～31 日まで、全国の主要都市でおこないました。東京地区では、銀座、渋谷、新宿、上野、池袋などでおこなわれた社会鍋募金に、14,204,801 円 (当期募金額) が寄せられました。全国の募金結果は追って報告いたします。

皆様からのご献金は、東日本大震災など国内外の緊急災害支援活動や街頭生活者支援活動、保護家庭、母子家庭、一人暮らしの高齢者、作業所などへの支援に役立させていただいています。



被災者……その時々の人々の必要に答え、問題を解決するために、ブリスは様々な働きを起しました。それらはどれも緊急を要するものであることから、迅速に実行に移せる軍隊流の組織をとつたのです。

日本においても救世軍は、一昨年三月十一日に起きた東日本大震災の時、発生翌日に被災地に支援物資をもって駆けつけました。以来、現地の関係機関と密に連絡をとり、また仮設住宅などにいる方々と交流を重ねながら、復興の度合いに応じて支援活動を継続しています。現在、日本では、四十六の小隊 (教会にあたる) と十の分隊 (伝道所にあたる) と十九の社会福祉施設、二つの病院 (ホスピス併設) での働きを通して、神の愛を伝えていきます。

#### (取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

#### 発行日及び定価

発行日 毎月一日・十五日

定価 一日号一部五〇円 (〒六〇円)

十五日号一部六〇円 (〒六〇円)

クリスマス特集号 (十二月一日号) 一部一〇〇円 (〒六八円)

一年分 (二七〇円) 送料七二八円

振替 〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 勝地 次郎

編集人 齋藤 恵子

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七

電話 東京 (03) 三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 図書印刷株式会社